

## 内外交差点

# 事故を防ぐには、研修から現場が語る「運転指導」の重要性

藤木 康介氏 (はなまる新規事業本部次長) 第4/12回

タクシー業界の事故の多くは、自損や構内での接触など、日常業務に潜む“基本”の中で起きています。その対策として注目されているのが、現場での実車研修。今回は導入を実現した日本交通グループ関西関西本部の大貫昌映・安全センター長との対談を通じて、安全を守る現場の工夫をお伝えします。

## 「見る」と「体験する」の大きな違い

藤木 日本交通様には、2日間で20名以上の方にご参加いただきました。研修では、狭いL字カーブの走行やバックでの駐車など、事故が起こりやすい場面を実際に体験していただきました。現場でご覧になって、参加された方の様子はいかがでしたか？



\* 安全運転研修の様子

大貫 印象的だったのが、堺営業所の方々は、狭いコースを通る際にしっかり車を降りて、幅や周囲を確認していたことですね。一方で、別の営業所では、そういった確認をする方が少なかった。

藤木 同じプログラムでも、営業所ごとに反応が違うというのは興味深いですね。

大貫 こうした小さな意識の違いが、長い目で見ると事故の発生率に影響するのではないかと。実車研修ならではの“気づき”がありました。

## 事故の大半は“自損” —だからこそ技術教育が必要

藤木 実際、タクシー業界での事故にはどんな傾向がありますか？

大貫 意外かもしれませんが、事故の大半は「自損事故」なんです。営業中よりも、営業所内でバックしてぶつけるなどが多いんです。

藤木 研修でもバック駐車に重点を置いていたのは、そういった実情があるからなんですね。

大貫 はい。あと、最近の車はセンサーなどの安全装備が進んできたとはいえ、やはり「車両感覚」が伴っていないと、安全運転はできません。

## 幅広い層が働く業界だからこそ

藤木 タクシー業界は、未経験の方や中高年の方も多く活躍されていますよね。

大貫 中には50代後半で入社される方もいらっしゃいます。ただ、そういった方々は、やはり“伸びしろ”に限界があることも事実です。だからこそ、教育でしっかり支えていく必要があるんです。

藤木 なるほど。運転経験や年齢層に関わらず、現場全体で技術や意識を底上げする必要があるということですね。

## 今後に向けて

藤木 参加者の皆様にアンケートも取らせていただきましたので、アンケートで出た声を参考に、さらに研修内容をブラッシュアップしていきたいです。

大貫 弊社としても2026年の新卒ドライバーには、あらかじめスケジュールを組んで、ぜひ受けてもらえるように準備を進めたいと思っています。

藤木 有り難うございます。我々としても、形だけでなく“実際に役立つ”研修を今後もお提案していければと思います。

次回も引き続き、対談形式で現場の声をお届けします。

中古タクシーの **買取・販売** は



**ソコカラ**  
SOCOCARA



▲お問い合わせはこちら

YouTubeで公開中！研修ダイジェストあり！

**動画** で見ると  
**交通安全研修** はこちら

